

あたらしくはいった本 (平成30年7月 貸出開始資料から)

- 小説 雨降る森の犬(馳星周/著) 火花散る(あさのあつこ/著) ポストカプセル(折原一/著) 空港時光(温又柔/著) 火影に咲く(木内昇/著) 本性(伊岡瞬/著) 不在(彩瀬まる/著) 火のないところに煙は(芦沢央/著) さしすせその女たち(柳月美智子/著) 火刑列島(森晶麿/著) 十三の物語(ステイーヴン・ミルハウザー/著)
- 随筆・詩などの文学 ノーベル文学賞を読む(橋本陽介/著) 芸は人なり、人生は笑いあり(桂歌丸/著) かんがえる子ども(安野光雅/著) 話しベタですが…(浅田次郎/ほか著) 旅先のオバケ(椎名誠/著) あいまいさを引きうけて(清水眞砂子/著)
- その他の本 いじめで死なせない(岸田雪子/著) 世界史を大きく動かした植物(稲垣栄洋/著) 百年の女(酒井順子/著) 自衛隊失格(伊藤祐靖/著) 現代日本のタブー(土屋晴仁/著) 岩石の科学(西川有司/著) ハトと日本人(大田眞也/著) 60歳からは「小さくする」暮らし(藤野嘉子/著) 翻訳地獄へようこそ(宮脇孝雄/著)



みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

としょかんカレンダー

平成30年	日	月	火	水	木	金	土
9	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

○のついた日は休館日

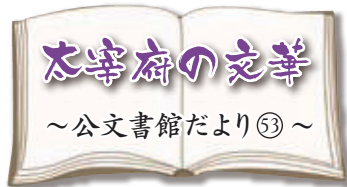
金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

町絵師齋藤秋圃の交友関係

齋藤秋圃(1772~1859)は、江戸時代後期の筑前を代表する絵師の一人で、晩年は大宰府に住み町絵師として活躍しました。本年4月、新しく大宰府市の指定文化財になった齋藤家資料は、この秋圃と息子梅圃を中心とした約1400件に及ぶ新発見の資料群で、絵師の家の資料らしく画稿(下絵など)が主ですが、100件を超える文書類も含まれています。特に秋圃に宛てられた書状の差出人を見ると、その豊かな交友関係を明らかにすることができます。

まず俳人については、蕉風(松尾芭蕉とその門人たちの作風)の復興に寄与したことで知られる大坂の大江丸の名がみえます。秋圃は絵俳書や俳諧摺物とよばれる俳諧に絵を添えた書籍や印刷物を京坂の版元から出版しています。が、そうした中で、大江丸と関係を持ったのかもしれない。

絵師としては、京都で活躍した円山四条派の紀広成の名が目を引きまします。秋圃は京都生まれで円山応挙(円山四条派の祖)らに師事したと伝えられま



~公文書館だより⑤~

聖福寺住持仙厓の書状です。両者はお互いがお互いの肖像を描くなど親しく交わっていました。この書状の宛名には2羽の鳩の絵が描かれており、「双鳩」という秋圃の雅号を表しています。名前を絵で表現するところに、仙厓の洒落心と秋圃への親しみを感ずることができるといえます。

すが、京都の画壇との結びつきをこの書状で確認できます。また、中国の画人江稼圃が秋圃に宛てた書状も残ります。長崎で江稼圃に師事しようとした秋圃は、その絵の技量をみた江稼圃から断られたというエピソードが残っていますが、両者の確かな交流を示す資料としてこの書状は貴重です。

その他にも学者・医者・商人・神官などさまざまな職業の人物との交流がこの資料群から読み解くことができます。齋藤家資料の本格的分析はまだはじまったばかりです。今後の研究の進展が期待されます。

太宰府市公文書館 朱雀 信城